

## コバノハイキンポウゲ, 小型のハイキンポウゲの新和名

五十嵐 博

〒066-0066 北海道千歳市大和 2-4-13 北海道野生植物研究所

### A New Japanese Name for *Ranunculus repens* L. var. *repens*

Hiroshi IGARASHI

Wild Plant Research Institute, 13-4-2, Yamato, Chitose, Hokkaido, 066-0066 Japan

**Abstract.** *Ranunculus repens* L. var. *repens* is naturalized in Hokkaido, northern Japan. A new Japanese name is given to this typical variety here.

筆者が利尻富士町篤泊甘露水付近のキンポウゲ属の検討を報告したのは2000年であったが、確定できた報告ではなかった(五十嵐, 2000)。その後、各地の道路沿いなどで外来種起源と思われる小型のハイキンポウゲと思われるものを確認していた。2011年、その後の道内各地の調査と各種文献調査により、小型の外来種起源と思われるハイキンポウゲの和名をコバノハイキンポウゲとする結論を得たので報告する。

ハイキンポウゲの学名は *Ranunculus repens* L. と各種図鑑類では記載されている(北村ほか, 1961; 佐竹ほか, 1982; 牧野, 2008)。北村ほか(1961)では、異名として、*R. repens* var. *major* Nakai も掲載されており、この問題を解く鍵はここにあった。

外国の図鑑類を見る限り、ハイキンポウゲ: *R. repens* L.: Creeping Buttercup の葉は日本国内で見られるものより小型である(Blamey *et al.*, 2003; Rameau *et al.*, 1989)。このため道内各地の道路沿いなどで確認される外来植物と思われる小型タイプの和名をコバノハイキンポウゲとした。ハイキンポウゲ(図1A)、コバノハイキンポウゲ(図1B)の標本コピーを図1に示した。*R. repens* L. var. *major* Nakai の学名は日本国内で確認される

大型の形態によく合致する。

滝田(2001)では、「*R. repens* はヨーロッパの文献 G. T. Tutin(1964)Flora Europaea によっても、変異の多い種なので詳しく調査する必要がある」と記している」と述べ、ハイキンポウゲの小型タイプを別に図示している。これは今回のコバノハイキンポウゲに該当すると筆者は考えている。

在来種と外来種には同様の例として、コバノカドオシ *Glechoma hederacea* ssp. *hederacea* とカドオシ *G. hederacea* ssp. *grandis*、コテングクワガタ *Veronica serpyllifolia* ssp. *serpyllifolia* とテングクワガタ *V. serpyllifolia* ssp. *hurnifusa* などが知られている。すなわち、在来種が大型で、外来種が小型であるということである。

植村ほか(2010)では、ハイキンポウゲが掲載されており、「近年、ヨーロッパ原産とされているものが園芸植物(カバープラント)として利用されており、ここからの逸出と考えられるものが、各地(人為的環境、市街地)から記録される」—中略—「今後、園芸利用の増加に伴い、栽培品からの逸出(投棄)が懸念される。特に湿地や水辺等への侵入は要注意である」とある。しかし、北海道では芝生起源と思われる侵入が目立ち、道路沿い、法面などで本種が確認されることが多い。



図1. A. ハイキンポウゲ (標本コピー) 1997.06.22. 風連町. B. コバノハイキンポウゲ (標本コピー) 2000.07.22. 羅白町.

滝田 (2001) の小型タイプの産地は厚田村 (現在は石狩市), 羅白町湯ノ沢, 旭川市江丹別峠の3箇所であり, 筆者の確認地: 確認年月日は以下に示す16箇所である.

コバノハイキンポウゲ確認地: 上土幌町萩ヶ岡橋付近: 1998.06.21, 利尻富士町鷺泊甘露水付近: 1999.07.28, 幌延町道路沿い: 1999.08.04, 紋別市渚滑川: 2000.07.19, 羅白町道の駅付近: 2000.07.22, 音威子府村物満内川沿い: 2002.06.22, 2002.07.13, 美深町国道沿い2箇所: 2002.06.22, 豊富町国道沿い: 2002.06.22, 猿払村浅茅野: 2002.06.23, 黒松内町中の沢川沿い: 2003.07.22, 豊富町豊徳道路沿い: 2007.06.03, ニセコ町有島道路沿い: 2008.06.19, 旭川市神居古潭: 2008.06.20, 2011.06.26, 中川町ぼんびら温泉: 2009.06.07, 2011.06.03, 深川市多度志道路沿い: 2009.07.03.

なお, 門田裕一博士 (国立科学博物館) から, *R. serpens* (種小名は蛇に由来) に関する検討が必

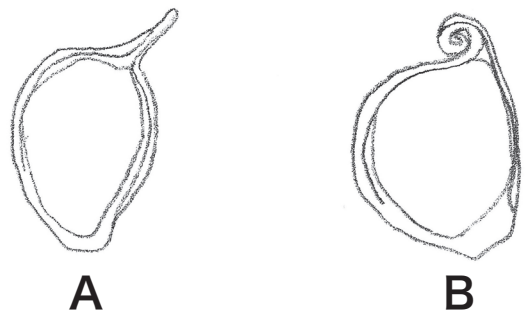


図2. A. *Ranunculus repens* L. B. *R. serpens* Schrank. Castroviejo *et al.* (1986) を参考に作図.

要との助言を頂いたのでこの件に関しても検討を行った. Castroviejo *et al.* (1986) には葉の形態やソウ果が図示されていた. 図2に示すとおり, ソウ果に差が確認された. これまでに採集した標本を検討した結果, 北海道に帰化しているものは *R. serpens* (図2 B: ソウ果の先が巻き込む) ではなく, *R. repens* (図2 A: ソウ果の先が尖る) であった.

標本は、北海道大学総合博物館に収めた。門田裕一博士には多くの助言を頂いたのでここに記してお礼申しあげます。

#### 参考文献

Blamey, M., R. Fitter & A. Fitter. 2003. *Wild Flowers of Britain & Ireland*. pp.22-23, A&C Black, London.

Castroviejo, S., M. Laínz, G. López González, P. Montserrat, F. Muñoz Garmendia, J. Paiva & L. Villar (Eds.), 1986. *Flora Iberica*. Vol. I. pp.279-371. Real Jard. Bot. C.S.I.C. Madrid.

五十嵐 博, 2000. 利尻富士町鴛泊甘露水付近のキンボウゲ属の検討. 利尻研究, (19): 89-91.

北村四郎・村田 源, 1984. 原色日本植物図鑑・

草本編II・離弁花類. pp.246-247, 保育社. 大阪.  
牧野富太郎, 2008. 新牧野日本植物図鑑. 大橋広好・  
邑田 仁・岩槻邦男編, p.152. 北隆館. 東京.  
Rameau, J. C., D. Mansion, G. Dume, 1989. *Flore Forestière Française*. pp.1486-1487. Institut pour le Développement Forestier. Paris.

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫編, 1982. 日本の野生植物II・草本・離弁花類. p.78. 平凡社. 東京.

滝田謙讓, 2001. 北海道植物図譜. pp.279-280. カトウ書館. 釧路.

植村修二・勝山輝男・清水矩宏・水田光雄・森田弘彦・  
廣田伸七・池原直樹, 2010. 日本帰化植物写真  
図鑑. 第2巻. p.54. 全国農村教育協会. 東京.